

## 第1回 大阪フォーリン・ビジネス・ネットワーク・クラブ 会議要旨

1 日 時 平成21年7月1日(水) 午前10時15分から午後12時15分

2 場 所 大阪市公館 (大阪市都島区網島町10-35)

3 出席者 関西の外資企業のトップ、在阪の海外領事館・商工会議所のメンバー 66人  
大阪市長

### 4 開催結果

(1) 挨拶 (大阪市長 平松邦夫)

(2) 講演1 大不況下で発揮される大阪経済のポテンシャル

(財団法人大阪市都市型産業振興センター 経済調査室長 徳田裕平)

講演2 大阪市での技術研究所開設について

(淀川メデック株式会社 常務取締役 木村 滋)

(3) 質疑応答

(講演1に対しての主な質疑・意見)

- ・ 世界的にみた時には消費のマーケットは依然として低下していると思うが、その点についてどう思うか。
- ・ 日本における製造業はこの10年間下降現象が継続しているが、大阪におけるサービス産業の振興方策は何か。
- ・ 国内と海外で非製造業部門を見ると海外の需要が少ないのでサービス部門の輸出を増やす努力が必要だと思う。

(講演1に対しての説明・応答)

- ・ 当分、アメリカ経済は回復しないと考えられる。日本車の輸出先はアメリカ、EUであり、そのウエイトが大きくアジアのウエイトは小さいので、アジアにおける景気上昇だけでは景気の回復は難しいと考えられる。そのためアメリカとEUの景気の回復が不可欠である。
- ・ 大阪のサービス産業の強みは関西一圈の拠点となりうるばかりでなく、西日本一帯をカバーする力を持っていると思う。サービス産業の振興は重要だが、現在はその実力を十分に出し切っているとは言えない。
- ・ 同感である。ただし、海外でサービス業を展開するためには、モノと違って現地の言葉でコミュニケーションする必要があるが、日本人は外国語にハンディがあり、容易ではない。

(講演2 に対しての主な質疑・意見)

- ・ 環境配慮の観点で、従業員も含めてエンドユーザーに対してどのように考えているか。
- ・ 偏光板についての貴社が有している技術的なアドバンテージは何か。
- ・ 大阪市からどんな支援を期待しているのか。

(講演2 に対しての説明・応答)

- ・ 環境に対しての配慮の一例として、従来はセパレーターをはぎ取るのに粘着テープを使っていたが、粘着テープを使わない方式にして資源の無駄遣いをなくした。
- ・ 液晶パネルは自己発光しない関係でバックライト、すなわち後ろからの光をコントロールする必要があるが、そのために両面にある角度からの光のみを通す偏光板を貼り付ける必要がある。従来装置は片面毎2回貼り付けを行っていたが、両面同時に貼る装置を弊社が開発した。
- ・ 海外に製品を輸出する際に、一番困っていることは為替の問題であり、日本と韓国とでは税制も違っている。その点を考慮しての支援を期待している。